

わがソーリ大臣は漢字は読めないけど、マンガは読んで、たとえば「ゴルゴ13」を愛読しているとか。それに敬意を表しての戯れ言です。さらりと読み流していただければ幸いです。

事件の犯人は、それで得る奴

すでに日本は、自民・公明政権や民主党も後押しした「構造改革」のおかげで、“誰でもいいから人を殺したかった”とか“戦争が起きれば自分という人間にも意味が見いだせる”という若者が出現するような国になってしまっています。そんなのに比べれば標的が明白なテロは、まだ考えが及びやすいかもしれない。

戦前も戦後もテロ事件の多くは、ときの権力が裏で糸をひいています。

「共産主義者を殺すのだから、もちろん無罪で、十万円もらえらるということだったのに、こんなところにぶちこまれてしまった」

とは、戦前、治安維持法に反対していた代議士を刺殺した犯人のセリフ。その後、懲役12年の刑を受け、じっさいには6年で出所したとか。

*

厚生労働省の高官死傷事件の第一報で、うまい汁を吸ってきた与党政治家が、官僚の口止めをはかったのだなと直感しました。が、その読みは浅かったというか、半端でした。

11月20日の段階で、しんぶん赤旗までが、識者のコメントとはいえ、右のような記事を掲載しているので驚きました。まるで、厚労省の政策に怒る側の犯行みたいではないか。まったく逆だっぺよ!

きたる選挙でこれまで権力をにぎってきた勢力を下野させかねない怒りとして国民の怒りが渦巻いていることを感じているのは、誰よりも与党自身でしょう。失うものの大きさを考えれば、政権延命のためには手段など選んでられないのでしょうか。

今回のテロ事件によって、その風向きが変えられるかどうか。

上記の溝口氏のコメントのような浅薄な視点までいかずとも、年金問題などの責任者は与党政治家でなく官僚のほうだと、国民からの批判の矛先を変える図式を描くことができるわけです。「給付金」という愚作もかすめばしめたもの。

と、やぶにらみをすれば、実行犯はともかく、真犯人(権力中枢)は永遠にヤミの中だろうなあ。



里のギャラリー 31

暴力は絶対に認められない

暴力団に襲撃された経験があるノンフィクション作家・溝口敦さんの話 官僚を標的としたテロだという印象を受ける。犯人が私的ら言つと、「やられるに厚生労働省と接点を持っていたとは思えない。怖」がある。「前」は実

い。年金行政への不満が、さらに攻撃をしてくるのがわからないう。やられた後は、い。やつらは本当にやられる」ということがリアル。暴力は絶対に排

い。同省への不信感を抱く人は多いと思う。しかし、粘り強く言論で批判し改めさせるとい。暴力は絶対に排

こざかしい設計 ①

右は、さる3月の末、新しく農道と用水路をつくっている工事現場の写真です。用水路のほうに注目してください。一般的なU字溝でなく、自然石を積み固めて擁壁を作っています。環境に配慮した工事だとか。

今どきは、なんでもかんでも「環境」とか「エコ」とかを冠につけるのが流行っているようで、そのほうが補助事業も採択しやすいようです。

さて、その環境配慮型の用水路。ちょっと気になることがあって、写真を撮っておきました。どんな心配をしたかわかりますか?(つづく)

